

東松島市イン・リーダー研修会(防災キャンプ)で小学生を対象に 2 つのワークショップを行いました(2016/7/18)

テーマ：防災教育、社会教育
場所：国立花山青少年自然の家（宮城県栗原市）

7月18日(月)海の日に、国立花山青少年自然の家にて「東松島市イン・リーダー研修会(防災キャンプ)」が開催され、当研究所の佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)が防災に関するワークショップの講師をつとめました。同研修会は、東松島市子ども会養成連合会及び東松島市教育委員会が主催・企画したもので、東松島市内の子ども会活動でのリーダーになる小学5・6年生を対象に、共同生活や野外活動を通し、リーダーとしての資質を磨き、集団活動における仲間づくりの大切さや自主性を育成する目的で開催されました。今回の研修会は、「防災キャンプ」ということで、研修プログラムの中に防災に関するワークショップが盛り込まれました。

佐藤翔輔助教は、「災害を生きぬく力おためしゲーム」と「ぼうさい家族会議」の2つのワークショップを提供しました。前者は、クイズを通して、参加者個々で自身の災害時の生きる力を可視化するものです。後者は、東松島市でも配布された「みんなの防災手帳」を用いて、参加者による模擬家族会議を通して、防災に関する家族会議を体験するものです。ワークショップには、70名の小学5・6年生が参加し、楽しく・和気あいあいとした雰囲気で行われました。参加した児童からは「いろいろな力を持っていることが分かりました。また、自分の判断で変わっていくことも感じました。」「災害が起きたらどのような行動をすればよいか分かりました。大学の先生に教えてもらってうれしかったし、ゲームも楽しかったです。またちがう問題を出してほしいです。」「災害時に必要なことや何をすればよいかなどについて分かりました。災害のときはどこに逃げるかなどについて家の人と相談してみたいと思います。」「家族と話していれば安全ということを知ることができました。実際にやってみていい経験でした。」「役を決め、本当の家族みたいになった気持ちでした。家族でもそういう話し合いが必要ということが分かりました。」「避難場所、災害リュックに入れるものなど、本当の家族でやるべきことが分かったのがよかったです。」などの感想がありました。



会場の様子



災害を生きぬく力おためしゲーム



ぼうさい家族会議



発表の様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）